

2 アイヌの人々の歴史と文化

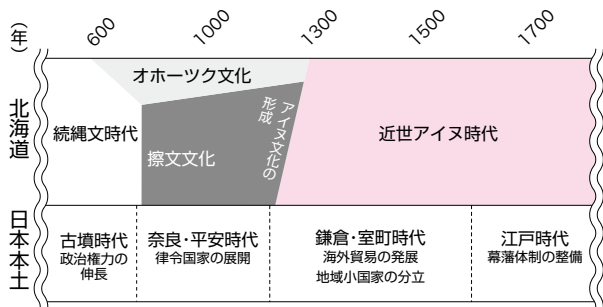
見

■ アイヌ文化の形成

日本における先住民族であるアイヌの人々は、現在の北海道を中心に、東北地方、サハリン、千島列島などで、独自の文化・伝統を持つ民族として暮らしてきました。

アイヌ文化は、土器を使い、狩猟、漁労、採集を生業としていた擦文文化（7世紀頃～）に、古代北方中国などの大陸沿岸部のオホーツク文化が影響を及ぼし、12～13世紀頃に成立したといわれています。

● アイヌ文化の形成



出典：アイヌ文化と日本の他地域の文化との年代対照表（佐々木高明氏作成）を基に作成

■ 同化政策

江戸時代の松前藩による支配や、明治維新（1860年代後半）以降の「北海道開拓」の過程で、独自の風習の禁止や日本語の使用の強制などの、大々的な同化政策（アイヌ民族の日本人化政策）が行われました。これにより、アイヌの人々の独自の民族文化、伝統的な生活手段は禁止され、社会的にはもとより、個々の暮らしも苦しい生活を強いられました。

■ 100年続いた「北海道旧土人保護法」

1899（明治32）年、明治政府は「北海道旧土人保護法」を制定しました。アイヌの人々は、それまで狩猟、漁労、採集、交易を主な生業としていました。しかし、農業奨励のための土地の付与をはじめ、医療、生活扶助、教育などの保護政策を柱とする同法に基づき、同化政策が進められました。さらに、第二次大戦後に実施された農地改革によって、農地の多くを取り上げられることもありました。明治以降の約100年にわたる国の政策により、「旧土人」とされたアイヌの人々の固有の文化は否定され続けてきたのです。